広島県議会議員

まとば

地域発！こころ豊かなまちづくり！

県政報告

No. 21

2020年３月

事務所

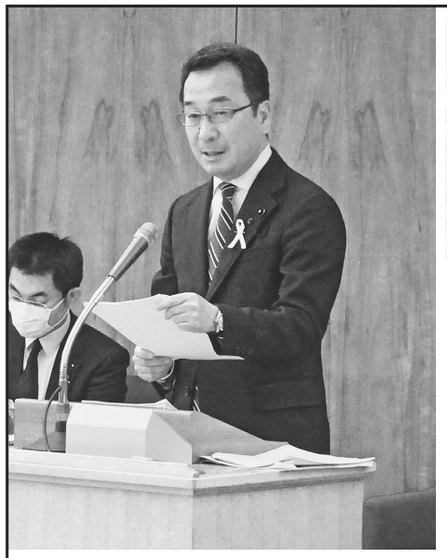
〒720-0807

福山市明治町２番６号

いのうえビル２F

TEL 084-973-9770

FAX 084-973-9771



２年連続「予算特別委員会」で 2020年度予算・施策を問う

～瀬戸内海の「豊かな恵みの海」再生、学校図書館整備、文化財・歴史的建造物の保存と活用～

2月定例会
2/20～3/17

新年度の一般会計予算等を審議する2月県議会は、27日間の会期で開かれ「一般会計予算1兆９０５億円」「新型コロナウイルス感染症緊急対応補正予算18億７７００万円」など72議案を可決・同意しました。

なお、「まとば豊」は昨年に引き続き「予算特別委員会」委員として登壇し、質疑を行いました。

◆子育て支援・放課後児童クラブ事業◆県立学校施設の整備◆観光振興◆公共事業（災害復旧・復興含む）〈農林・土木〉等です。 ※別紙：福山市関係分の主要施策

知事説明

新型コロナウイルス感染症の対応について、「特別警戒本部」を設置し、県内で感染が発見された場合には全力で感染の拡大を抑えるとともに、感染者の重症化防止に取り組む。

新年度は豪雨災害からの一日も早い復旧・復興に向け「創造的復興による新たな広島県づくり」に最優先で取り組む。急速に進むデジタル化社会の到来に向けて、先端技術やビッグデータを活用して様々な社会課題の解決と経済発展の両立を図る「デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）」を推進する。

◇「豪雨災害からの復旧・復興プラン」事業１０８７億円

◇「デジタルトランスフォーメーション」の推進。47億４１００万円

福山市関係の予算は、◆鞆地区の振興

予算特別委員会

「まとば 豊」総括審査質疑

1．瀬戸内海における「豊かな恵みの海」の再生に向けて

的場 知事は初当選後、「瀬戸内 海の道構見」をキーワードに「瀬戸内 海の道構想」を導き出された。

私は、まだ県議ではなかったが、「海の道1兆円構想」を備後福山の地で聞き及び、瀬戸内海における、多島美、観光振興、ブランド化、古からの豊かな恵みの海の復活等に期待感を持ったのを憶えている。

1兆円という額は県の一般会計予算に匹敵する規模であり、大きな目標を掲げたものだと思ったが、瀬戸内海全域のポテンシャルを考えれば、目標達成も不可能ではないと考えていた。

質疑(1) 1兆円の目標に対する達成状況、目標年次である最終年度の予算対応と達成予測、また、「海の道構想」の今後のプロセスはどうなっていくのか問う。

知事答弁 海の道1兆円構想策定の際の計算式に基づき推計すると、2018年は約６４００億円となっており、1兆円には届いていないが、策定前と比較して約１８００億円増加している。

構想の今後は、せとうちＤＭＯと共同で総括を行うとともに、連携して戦略的に取り組む。

質疑(2) 「1兆円構想」における食材・農水産物を用いた観光関連消費額増加の目標値に対する達成状況と残された課題について問う。

的場 私が危惧しているのは、瀬戸内海における環境問題と水産資源の枯渇化問題が置き去りにされて来たのではないかと言うことである。

海砂の採取により、海底の環境や潮流も変化したことと併せ、海中の栄養が足りておらず、魚の餌となるプランクトン減少等の要因が重なり、水産資源の枯渇化が進んでいる。

2017年の漁獲量はピークであった１９７９年の１万８千トンから28％程度しかない５千トンにまで減少し、産出額も約１４５億円から７割減の約48億円まで減少している。

瀬戸内海は「本当にこのままで良いのか」と疑念を抱いているのは、私だけではない。

先日も、備後灘の漁場がある福山の鞆町や内海町、沼隈町でお話を聞いていると「カキやアサリの身が大きくならない」「養殖ノリに色が着かないため、愛媛県等のノリと混ぜ合わせなければ商品にならない」「わたり蟹は取れ高が少なく、シャコは全く上がらなくなった」と地元の人は嘆いていた。

このままでは、瀬戸内海が死んでしまい、何らかの方策が必要である。

質疑(3) そこで、瀬戸内海の水産資源の枯渇化に対する県の現状認識と今後の対策・方針について問う。

的場 これから先の社会・経済構造を考えるにつけ、自然環境を守ることは、将来にわたる最大の経済対策であると考えている。人間の生命の根源である森・里山・川・海の環境とそこから生み出される資源を守ることは、県という広域行政の大きな役割ではないか。

海で儲けたお金は、海に還元しなければならない。

例えば、知事発の（仮称）『瀬戸内海「豊かな恵みの海」再生10年ビジョン』を掲げ、その中で、『◎現在「創造的復興」で進めている河川の浚渫で出される川砂の再利用◎福山内港で実証実験している鉄鋼スラブの藻場再生への活用◎福山の内海町の地域住民が港のヘドロ除去で取り組んだＥＭ菌の活用◎プラゴミを減らすための協力補助金の交付◎ひろしまの森づくり県民税を使い、森の再生から森の栄養を川と海に還流させる事業』等の具体的施策を検討し、重点的に取り組んで行くことが求められる。

質疑(4) 現在策定中の次期「県の総合計画」に向けて、瀬戸内海の「豊かな恵みの海」の再生に向けた資源循環型の自然環境を守るための政策について問う。

広島県議会：検索 ➡ 広島県議会ホームページを開く ➡ インターネット中継 ➡ 録画中継の予算特別委員会 ➡ 3月11日：的場豊の再生　YouTube ➡ 広島県議会 的場豊：検索 ➡ 予算特別委員会をクリック

■県政への相談がありましたら、お気軽にご相談してください。　■ホームページ http://www.matoba-yutaka.com　■Ｅメール y.matoba1026@outlook.jp

☆９月定例会で質問した国の「種子法」廃止に伴なう『広島県種子条例』を６月議会で議員提案により制定する予定です。

知事答弁　「ひろしま未来チャレンジビジョン」や、「瀬戸内海環境保全計画」の見直しに反映させ、「美しく恵み豊かな瀬戸内海の実現」をめざし、国や関係する府県などと連携した取組を進める。

的場要請　**瀬戸内海は古から私たちに海の恵みを与え続けてきた。「海の道構想」の最初のページには、「後からきたものが　わたしたちのあるいた先をカづよくあるいて行けるような道をつくっておこう」民俗学者の「宮本常一」さんの言葉が書かれている。**

今こそ瀬戸内７県が協力して、「豊かな恵みの瀬戸内海」を再生し、「わたしたちのあるいた先を　後からきたものへ」引き継ぐことが求められている。

瀬戸内の要の県である広島県がリーダーシップを発揮し、その先頭を走って頂くことを要望する。

２．学校図書館の整備について

的場　平川教育長は、横浜市の現場校長から県教育長に就任され、当初から「現場主義」「子どもの主体を尊重する教育」を掲げ、横浜での現場実践から、特に「学校図書館の整備」を進めていくことを宣言されていた。

それを受け、県教委は、昨年11月「県子どもの読書活動推進計画（第四次）」を策定した。

私も自身の政治テーマの一つとして、「公立図書館・学校図書館の充実」を掲げており、教育長の意気込みとこの計画に非常に期待している。

以前、行政調査で、佐賀県伊万里市の公立図書館を訪ねた際に、伊万里焼の登り窯をイメージした読み聞かせルームで、市内の保育所・幼稚園の子どもや、小学校低学年に毎日のように絵本等の読み聞かせをしているとのことでした。

子どもたちは、登り窯の部屋に入ると、これから始まる期待感でワクワクし、大騒ぎするが、その後、電気を消して真っ暗になると静寂が訪れ、最後は登り窯の天井に流れ星が輝き、歓声が巻き起こる。そして、照明が灯され、読み聞かせが始まると、絵本に集中して話を聞くそうである。想像するだけでも、子どもたちの活き活きとした興味津々の顔が浮かんで来る。

何が言いたいのかと言うと、伊万里の例は一例だが、子どもが育ちゆく保育・教育において、興味が沸くとか主体性が培われて行くためには、本人の意識・自我の確立が大切であり、それに影響を及ぼすのが、感性を磨くことや集中力を高めるための学習への環境づくり、言い換えれば、教育現場における子どもたちが学ぶための「環境教育」の充実・整備が不可欠であるということである。

質疑(1)　**「読書活動推進計画」に示されている、物的整備である学校図書館のリニューアル整備と併せ、障がいのある子どもの読む・学ぶ権利の保障にもつながる環境基盤整備としての図書館ＩＣＴ化施策を推進について問う。**

的場　児童・生徒の読書習慣が身に付くためには、幼少期から本への親しみを持つことにより、知的好奇心を抱き、その好奇心を埋め合わせるための営みを繰り返すことが必要だと考える。

幼児期の絵本の読み聞かせ、小・中学校の知的好奇心旺盛な時期の選書、そして、専門的な研究や知識の深堀りをすることにより、将来の自分の可能性や人生訓を導き出そうとする高校時代、その成長過程の中での素晴らしい本との出会いは、発達や成長の大切な糧となるのは言うまでもない。

質疑(2)　**「計画」に示されている、人的整備である学校司書の全校配置に向けた新年度からの具体的な配置計画、特に4.9％しかない県立高校の配置の道筋について問う。**

教育長答弁　学校における読書活動の推進には、学ぶことを教える大人の存在が極めて重要であり、人的環境の整備は欠かせないものと考えている。

的場要請　**高校生の不読率は47.4％と高く、専門的な研究や調査、知識の深堀りをするためにレファレンスが大切になってくる高等学校図書館の教育条件である学校司書については、早期に配置するよう強く、強く要請します。**

質疑(3)　公立図書館と学校図書館の連携について問う。

的場要請　**先日の定例会で、教育長は「新年度予算では、図書館のリニューアルを予定していない」と答弁された。**

通常、「計画」の改定時には予算の裏付けも含め、学校司書の配置や、図書館の整備計画を立てるのが行政として当然である。

具体的な配置・整備計画と予算の確保を示さなければ、県民や子どもたちの求めるものに応えていない。早い段階で全県にわたる館整備の具体案を議会と県民に示すことを要請する。

３．公共財産・文化財・歴史的価値のある建物の保存と活用政策について

的場　県内の観光資源でもある文化財の保護に向けて、今後の保存・整備計画への早急な対応が求められている。

先日、会派で「旧陸軍被服支廠」保存に向け、文化庁のヒアリングを受けた際に、国の担当者は、「文化財保護のための改修・修繕予算は、新年度の要求は全国から５００箇所を超える事業に対し、予算は61億６００万円しかなく、箇所数で割ると１２００万円程度。文化財の災害復旧も数多くあり、各県への配分もあまり期待しないで頂きたい。」とのことでありました。

質疑(1)　**県内にある文化財や歴史的価値のある建物の現状把握の状況と今後の保存・整備計画についてどのような手立てをお考えなのか問う。**

質疑(2)　**文化財や歴史的価値のある建物の保存と活用策を進めるためには、地域づくり・観光振興策などの重層的なロードマップの作成と、将来的な支出増に備えるため「広島県文化財・歴史的建造物保護基金」の設置について問う。**

教育長答弁　財源確保方策については、全国で寄附金など多様な手法が進められ、複数の府県で基金を活用した取組が実施されており、こうした事例を参考に様々な角度から研究する。

的場　本来公共事業は、税財源の公共投資によって地域経済が潤うことにより、物づくり産業が発展し、そして、地域の労働者が技術を磨き、若い世代の労働者が育っていくことに繋がらなければならない。

福山城や広島城の修理や修復、福山市鞆町が重要伝統的建造物群保存地区に選定された後の街づくりや古民家再生などの整備、建物の保存や補修が景観を守りながら行われるには匠と言われる熟練技能者の技術が求められる。

質疑(3)　**地域の伝統文化や技術に応じた匠と言われる熟練技能者の技の伝承と若い技術者の地元育成を支援し、それを実現していくための仕組みづくりを検討してはどうかと考えるが所見を問う。**

的場要請　**姫路城や熊本城の修復・修理では、その工事期間の状態を観光客や歴史研究家、技術者が見ることにより、その歴史性や時代考証を楽しみながら、また、その様に地域の夢と希望が繋がっている。屋根裏や柱に何百年前の建設当時の大工や左官のサインなどの痕跡があるなど、歴史の息吹の熱いものも感じられる。**

ぜひ、「ひろしまマイスター制度」の活用も検討し、若い世代が仕事に対し、夢が描け、天職として働き続けられる仕組みづくりの構築に向け、大局的見地に立った「人づくり政策」を要請する。

◇「まとば　豊」事務所移転先 ⇒「明治町２番６号　いのうえビル２Ｆ」（南部保育所の向かいのビル）お気軽にお立ち寄りください！